

# 中学校における英語による英語の授業 その取組と成果

－生徒の質問紙が示唆するもの－

堀江美智代\*, 園元 恭子\*\*

Learning English through English in Japanese Junior High Schools: Instruction and Achievement  
－ An Analysis of Results from a Student Questionnaire －

Michiyo Horie\* and Kyoko Sonomoto\*\*

中央教育審議会は、平成27年8月26日、教育課程企画特別部会における論点整理をまとめ、次期学習指導要領改定に向けた文部科学省の考え方や方向性について解説している。その報告の中で、中学校段階では、互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とする観点から、中学校においても「授業を英語で行う」事を基本としている。しかし、英語だけで英語の授業を実施している中学校は少ないのが現状であり、授業を受けた生徒の視点からの調査研究も少ない。そこで、本稿では、長年にわたり「英語による英語の指導」を実践している鹿児島純心女子中学校における取り組みを紹介し、生徒に質問紙調査を行った結果を分析し考察する。調査の結果、1年間、英語だけの授業を受けた生徒たちの授業評価は高く、「英語の授業を英語で行う」利点を多く認めていることがわかった。また、英語だけの授業は、「英語好き」を育て「英語学習に対する意欲」を向上させていることを示唆している。

**Key Words:** 中学校, 英語で授業, 質問紙調査, 言語活動, 学習意欲

(Received September 26, 2016)

## 1. 研究の背景「英語の授業は英語で」の背景と現状

文部科学省（以下「文科省」）は、2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、グローバル化に対応した英語教育改革を進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、小・中・高等学校を通じた一貫した教育目標の設定、高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善など英語教育全体の一層の充実を図るとしている。その改革の一つとして、高等学校に続き中学校でも「授業を英語で行うことを基本」とし、内容に踏み込んだ言語活動を重視することが示されている。文科省が実施した「平成27年度英語教育実施状況調査」によると、授業における中学校教員の英語使用状況は、「発話をおおむね英語で行っている（75%

\* 鹿児島純心女子短期大学英語科（〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号）

\*\* 鹿児島純心女子中学校・高等学校（〒890-8522 鹿児島市唐湊4丁目22番2号）

程度以上)」が第1学年で10.3%，第2学年で9.1%，第3学年で9.4%である。「発話の半分以上を英語で行っている（50%程度以上～75%程度未満）」は、学年順に48.0%，47.8%，45.4%であり、合わせて、全体で6割弱の教員が授業で英語を5割以上使用していることになる。この結果は、平成26年度より約8ポイント上昇しているとはいえ、英語で授業を行っている教員が少ないというのが現状である。

同報告書によると、授業中半分以上言語活動を行っているのは、中学校1年生56.0%，2年生51.2%，3年生47.7%となっている。生徒が、ペアやグループで英語活動を行っている時間が少なく、「文法・読解」中心で教師からのレクチャー型の授業が主体であり、実践的な英語コミュニケーション能力の育成を意識した取組が不十分な学校も多い。中学校において、小学校との連続性を図りつつ、互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心とする授業を行う必要がある。

文科省の「授業は英語で行うことを基本とする」ことは、それ自体が目的ではなく、目的を達成するための手段である。このねらいは、英語による言語活動を授業の中心にすることであり、生徒が授業で英語を使って言語活動をしていることが重要である。目的は、英語学習を活性化することであり、今までの「知識伝達型」の英語教育ではなく、「アクティブラーニング」、つまり、生徒自身が自分で考え、自分で英語を使って、表現していく力を身につける必要がある。そのためには、ペアワークやグループ活動を通して他の生徒たちと関わり、目的に向かって英語を使いながら何かを達成していくことが重要になる。しかし、英語だけで英語の授業を実施している中学校は少ないのが現状であり、授業を受けた生徒の視点からの調査研究も少ない。そこで、長年にわたり鹿児島純心女子中学校（以下「純中」）で「英語による英語の指導」を実践している著者（園元）の取り組みとその成果を探るため、生徒に質問紙調査を実施した。本稿では、純中における英語による英語指導の概要を報告し、質問紙の結果を分析し考察する。

## 2. 調査の背景

### 2.1 鹿児島純心女子中学校1年次における英語教育の現状

著者（園元）は、純中で「4技能をバランスよく指導し、英語の基礎力を養い、楽しみながら自己表現と意見交換の能力を育成する」ことを大きな目標とし、言語習得の発達段階を重視したListening—Speaking—Reading—Writingの順序を意識しながら4技能のバランスを大切にすべて英語（All English）での指導を心がけている。

中学1年生の指導目標は、英文の構成を理解し、英語の音声的特長（発音、リズム、イントネーションなど）を身につけることである。また、日常的なテーマについて話すための基本的な英文を覚え、自己表現に必要な語彙を知り、いくつかの発話表現パターンを利用して自分のことについてスピーチできることを目指している。

中学1年生の指導で力を入れていることは大きく4つある。一つ目は、音読指導の徹底である。1学期間は検定教科書を使わずに、『英会話たいそう Dansinglish』などのMPI教材を使用し、英語独特のリズム・イントネーション・発音を身体全体でインプットしていくことを大切にしている。フォニックス教授法（英語の文字と音声との関係をわかり易くシステマティックに導

入し、自分の力で英語を読み、音を聞き、自分の力で書けるように自立を育む学習方法）を取り入れていることも大きな特徴である。これらは、生徒たちが自信を持って英文を読むこと話すことにつながる。2学期から入る検定教科書においても、本文を読む活動を多く実践し、様々な音読法を取り入れて飽きさせないように工夫している。音読カードを使い、保護者や教師の前で読むことにより定着も図っている。

二つ目に大切にしていることは、辞書指導である。中学1年生の最初の段階で和英・英和辞典を購入させ、辞書の引き方を指導し、予習の際に意味を確認してくる。さらには派生語や反対語を自分で調べ、新出単語を使った英文を作ることを課題としている。まだ、最初の段階では辞書の例文を写すだけの生徒が多いが、次第に例文を応用し、自分の力で英文を作ることができるようになってくる。この作業によって英文の構造を理解し、後に英語で自分の意見を述べる力へと発展していく。

三つ目は、文法指導である。コミュニケーション重視の英語教育と文法重視の英語教育は決して相反するものではないと考え、1学期に反復練習で音声のみでインプットされた英語の文から文法事項を抽出して定着を図るという発想の転換をし、徹底した文法の指導を行なっている。高校でさらに高度な英文法を学習していくことを考えると中学での文法指導も避けて通ることはできず、何より、真の英語力をつけるためには文法理解は欠かせない。文法事項はスパイラルに学ぶことが定着につながると考える。

四つ目は、表現指導である。学んだものを運用する力が求められている今、インプットとアウトプットのバランスは非常に大切である。1学期に『英会話たいそう Dansinglish』や『Q-A100』、チャンツでインプットされたパターン文を応用し、2学期からは帯活動として毎日、ペアで指示されたお題について話し、さらには書くという時間を設けている。「書く」→「話す」ではなく、「話す」→「書く」という順序にすることで即興性が身につくと考える。

## 2.2 1年次の主な言語活動

1. フォニックス 文字と音声の関連を知り、それぞれの文字の正しい発音を学び、ルールを理解することにより自分の力で未知の単語・文章を読み書かせる。教科書は、『40時間でフォニックス Take off with Phonics Book 1, 2』を使用。
2. ダンスイングリッシュ 簡単な会話表現を歌とダンスを通して楽しく身体で覚え、その意味を知り、覚えた表現を自分の表現活動に取り入れさせる。使用教材は、『英会話たいそう Dansinglish』『もっと英会話たいそう Dansinglish』である。
3. 授業の内容のCD 授業で学んだ重要表現など録音したものを休み時間や自宅で聞かせる。
4. 5級チャンツ 実用英語検定の5級、4級に多く出題されているイディオムや英文を、オリジナルのチャンツに作ったCDを休み時間や英語検定の対策時に聞かせる。
5. 文法チャンツ 文法のルールと英語独特の発音、リズム、イントネーションを身につけさせる。使用教材は、『CHANTS for Grammar』である。
6. 音読（スイッチリーディング） ペアで向き合って、または背中合わせや横に立ち、教師の合図によって交互に英文を読む。

7. 音読・暗唱カード フォニックスのテキストや検定教科書の英文を暗記し、保護者の前で読み、カードに印鑑とコメントをいただく。また、教師の前で休み時間などに音読し印鑑をもらう。
8. 迷子・くせ者・スパイを探せ 教科書本文の単語を1語だけ抜いたり、加えたり、変えたりした文を読み、その単語を見つける。
9. 列対抗ゲーム 列対抗で、動詞の活用やQAなどを伝言ゲームのように後列の人から前列の人にささやき伝え、最前列の人が答える。同じ列の人は助け合い、早く正確に伝えた列がポイントを得る。
10. ペアでウォームアップ 授業の始めに与えられた指示(1～20までの数字、二乗、月、曜日、アルファベット等)に従ってペアで交互にその英語を言っていく。
11. Student Teacher 生徒は、毎時間授業の始めに1人ずつ出席番号順に前に出てきて、簡単な英語で質問(日付、曜日、時間、天気、欠席者など)し、その後教師に与えられたお題でスピーチを行う。
12. QA100 「QA-100指導用カード」を活用し、いろいろなパターンの質問文に対しフルセンテンスで答えたり、教師に質問したり、生徒同士で質問し合う。
13. One minute monologue 毎日、教師によって出された題(トピック)について、ペアになり一人がスピーチ、もう一人がセンテンスカウンターを使って数をチェックする。交互に行い、その後、今自分が発話したスピーチを5分間でプリントに書く。
14. パパイヤジュース 教科書の新出単語を生徒が1人ずつ順番に読んでいき、その後を全員がリズムと正しい読み方を意識しながら復唱していく。読めないときはパスすることができる。その際に「パパイヤジュース」-「美味しいね」と応答する。
15. スキット 教科書の会話文をペアで覚え、前に出てきて発表する。

### 3. 研究の方法

#### 3.1 調査方法

本調査は、1年間英語だけの英語の授業を受けてきた鹿児島純心女子中学校2年生17名を対象に、無記名で質問紙への回答を求めたものである。2年生は、43名いるが、そのうち著者の担当する2年生のクラスのみを今回の調査対象とした。調査は、2016年4月の授業で行なった。

#### 3.2 調査内容

質問紙は、英語の授業の理解度やその効果等について回答する17の質問項目と英語力向上の要因などについて答える自由記述3問から構成されている。一部の質問(質問4, 5, 6, 12, 13, 14, 15)については、ベネッセの「中高生の英語学習に関する実態調査2014」(以下「ベネッセ2014」)と比較考察するため同じ質問を使用した。ベネッセ教育総合研究所では、2014年3月に全国の中学1年生から高校3年生を対象に、「英語学習の実態や意識に関する調査2014」を実施している。それは、英語教育改革の検討が進むなか、子どもの英語学習の実態や意識に深く切り込むことにより、改めて英語の指導と学習の課題を考察することを目的にしている。調査

対象は、全国の中1から高3まで6294名（有効回答数）である。調査項目は、授業の理解度、授業における活動内容、先生の授業での英語使用、勉強時間、英語学習のつまずき、英語の必要性、将来の英語使用などである。注意書きがない限り、本稿で比較した学年は、2014年3月時点での中学1年生（1057名）である。

「英語で授業を行うための工夫」の項目は、中井（2010）を参考にした。中井（2010）は、「英語で授業を行う」上で必要な工夫として、和泉（2009）のイマージョン教育でのインプット理解を促す方法を紹介している。「英語の授業を英語で行う利点と問題点」については、Yamada & Hristoskova（2011）と同じ項目を使用した。Yamada（2011）らは、高校生に対してアンケートを実施しているため、その調査結果について本稿では比較しない。

## 4. 結果と考察

### 4.1 英語だけの授業の理解度

「1年生の時の英語の授業で、日本人の先生はどのくらい英語を使って授業を進めていましたか」という質問に対し、全員が「ほとんど英語で授業している」と回答しており、生徒たちも英語だけで1年間授業が行われていたことを認めている。

「英語の授業を英語でする授業にどのくらい慣れていますか」と尋ねたところ、「慣れている」（94.1%）と「やや慣れている」（5.6%）を合わせて全員が英語だけの授業に慣れていると回答している。

図1は、その授業の理解度を示している。「あなたは、英語で行われた英語の授業をどのくらい理解していましたか」という質問に対して、「ほとんど分かっている」（70.6%）と「70%くらい分かっている」（29.4%）と回答しており、合わせると100%になる。英語で授業が行われたにもかかわらず、全員が授業をよく理解しているということがわかる。「ベネッセ2014」によると、授業について「ほとんど分かっている」（32.1%）と「70%くらい分かっている」（32.9%）を合わせて65%であり、約4割近くの生徒は日本語で授業が行われていても、あまり授業を理解していないことが示唆されている。このことから、授業の理解度は教師の使用言語とはあまり関係がないと思われる。教師の使用言語（英語）が意味のある文脈の中で工夫して提示されれば、生徒はたくさんの量の英語を聞くことに慣れ、曖昧さがなくなり、英語だけの授業も理解できると考えられる。

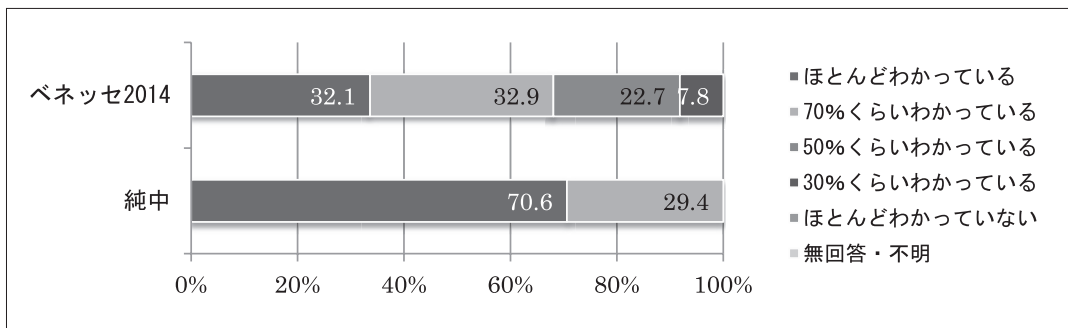
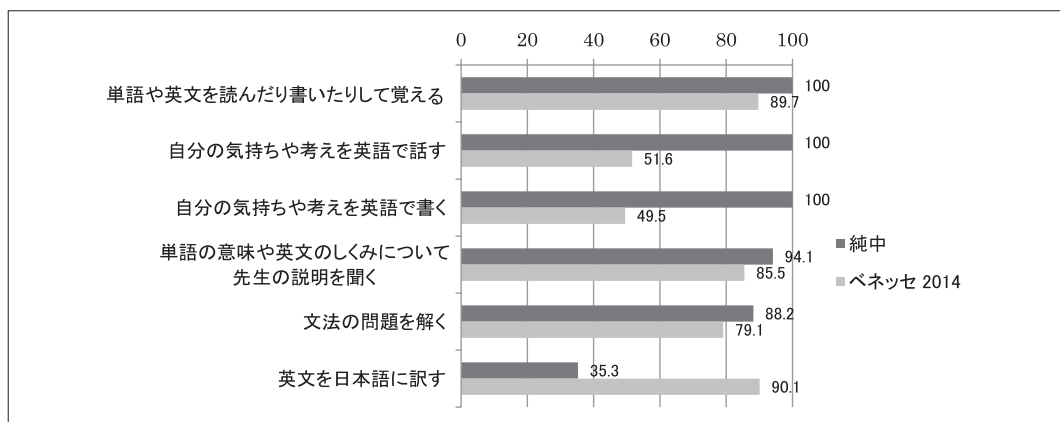


図1 英語の授業の理解度

「英語が得意ですか、苦手ですか」という質問に対して、「とても得意」(23.5%),「やや得意」(41.2%)を合わせて約65%の生徒が得意であり、「普通」が29.4%,「やや苦手」は1人(5.9%)しかいない。英語だけの授業を受けて、英語が苦手にならずに、得意になった生徒が多いといえる。

#### 4.2 授業における活動内容

図2は、授業でしていることを示している。



注) 「よくしている」「ときどきしている」の合計割合を「ベネッセ 2014」と共通項目のみ比較 (単位: %)

図2 授業でしていること

「英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていましたか」という質問に対して、一番多いのは、「自分の考えや気持ちを英語で話す」で「よくしている」(88.2%)と「ときどきしている」(11.8%)を合わせると全員が行われていると回答している。「ベネッセ2014」では、「よくしている」と「ときどきしている」を合計した場合、「英文を日本語に訳す」が90.1%で一番多く、次が「単語や英文を読んだり書いたりして覚える」(89.7%),「単語の意味や英文のしくみについて先生の説明を聞く」(85.5%)である。「自分の考えや気持ちを英語で話す」は51.6%,「自分の考えや気持ちを英語で書く」は49.5%とかなり低い。しかし、純中では「自分の考えや気持ちを英語で話す」だけでなく、「自分の考えや気持ちを英語で書く」の割合も100%であり、授業中に「発信型の言語活動」が実施されていたことがわかる。新学習指導要領では「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を総合的に育成すること」が求められており、それになかった授業が実践されているといえよう。

#### 4.3 授業の成果

表1は、1年間英語で授業を受けた成果についてまとめてある。「1年間英語で英語の授業を受けた結果、次のようなことはどれくらいあてはまりますか」という質問に対して、「とてもあてはまる」と回答した生徒が一番多いのは、「英語が好きになった」と「英語をもっと勉強したいと思う」で94.1%である。次に「スピーキング力が向上した」と「発音が良くなった」の82.4%が続く。図2の結果でも示されているように、普段の授業で行っている内容として「聞く・

話す」活動が最も多いことから、実際それが身についており、生徒が実感として発音や話す力の向上を認めているのも当然の結果といえる。コミュニケーション能力の育成が重視されている中で、望ましい傾向である。英語だけの授業は「英語好き」を育て「英語学習に対する意欲」を向上させていることが示唆される。また、すべての項目において「とてもあてはまる」と「まああてはまる」を合わせると約9割の生徒が、英語だけの授業の影響を大変肯定的に捉えているといえる。

表1 授業の成果

	とても あてはまる	まあ あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
1 リスニング力が向上した	9(52.9)	8(47.1)	0(0)	0(0)
2 スピーキング力が向上した	14(82.4)	3(17.6)	0(0)	0(0)
3 リーディング力が向上した	12(70.6)	5(29.4)	0(0)	0(0)
4 ライティング力が向上した	13(6.5)	4(23.5)	0(0)	0(0)
5 発音がよくなった	14(82.4)	3(17.6)	0(0)	0(0)
6 語彙力が向上した	13(76.5)	4(23.5)	0(0)	0(0)
7 文法が身についた	10(58.8)	7(41.2)	0(0)	0(0)
8 異文化に対する興味が増した	10(58.8)	6(35.3)	1(5.9)	0(0)
9 英語が好きになった	16(94.1)	1(5.9)	0(0)	0(0)
10 人と話すのが好きになった	10(58.8)	5(29.4)	2(11.8)	0(0)
11 英語の学習方法がわかった	10(58.8)	6(35.3)	1(5.9)	0(0)
12 英語をもっと勉強したいと思う	16(94.1)	1(5.9)	0(0)	0(0)

単位：人（％）

#### 4.4 英語で授業を行うための工夫

表2は、「英語で授業を行うための工夫」について聞いた結果である。「生徒の皆さんが英語の授業を理解するのに、先生はどのような工夫をしていたと思いますか」という質問に対し、「よくしている」こととして、全員が「ペアワークやグループワークが多い」と回答している。教師が英語で説明したことをペアでチェックさせたり、ペアでフォニックスのキーワードやルールを言ったり、教科書を音読したりなど、ペアワークは授業の中で頻繁に活用されており、英語での指示や説明を理解したかどうかを生徒同士に日本語で確認させ活動をさせていた。これは生徒が活動の主体となるような協働的学習であり、大変有意義な学習方法といえる。

次に、「よくしていること」として、「明瞭な発音で、誇張したイントネーションで話す」と「ジェスチャーや顔の表情を豊かに使う」が94.1%と続く。他にも「よくしている」と「ときどきしている」を合わせると100%になる項目として、「重要な単語やフレーズを強調したり、繰り返したりする」「具体例を使う」「生徒同士で理解を確認し合う時間を設ける」が挙げられている。日本人教員がこのような工夫をすることで、生徒の授業に対する理解度も高まり、表1が示すように「英語力が身に付き、英語が好きな生徒」が増加すると考えられる。

「ゆっくり話す」ということに関しては「まったくしていない」（23.5%）と「あまりしていない」（47.1%）を合わせると、約7割の生徒が話すスピードが遅くなっていないことを認めている。実際、担当教員はあえてスピードを落とさず自然なスピードで話すことを心がけており、それでも英語だけの授業が理解されていることは注目に値する。

表2 英語で授業を行う工夫

	よく している	ときどき している	あまり していない	まったく していない
ゆっくり話す（話すスピードを落とす）	0(0)	5(29.4)	8(47.1)	4(23.5)
英語で話す途中の間（ポーズ）を長くして、生徒が英語を理解する時間を与える	11(64.7)	5(29.4)	1(5.9)	0(0)
明瞭な発音で、誇張したイントネーションで話す	16(94.1)	1(5.9)	0(0)	0(0)
重要な単語やフレーズを強調したり、繰り返したりする	12(70.6)	5(29.4)	0(0)	0(0)
同じ単語や文、またはセンテンス・パターンを繰り返して使う	7(41.2)	7(41.2)	3(17.6)	0(0)
言い換えをする（簡単な英語に言い換える）	6(35.3)	5(29.4)	4(23.5)	2(11.8)
具体例を使う	12(70.6)	5(29.4)	0(0)	0(0)
同義語（意味が同じである単語）を使う	12(70.6)	4(23.5)	1(5.9)	0(0)
生徒が知っていそうな外来語（カタカナ英語）などを使う	0(0)	4(23.5)	8(47.1)	5(29.4)
写真・絵・実物など視覚的に訴える教材を使う	12(70.6)	2(11.8)	3(17.6)	0(0)
ジェスチャーや顔の表情を豊かに使う	16(94.1)	1(5.9)	0(0)	0(0)
生徒がすでに知っていることや、生徒の経験と結びつけて、新しい学習内容を提示する	8(47.1)	7(41.2)	2(11.8)	0(0)
授業の最初に、その日の学習目標を提示し板書する	3(17.6)	7(41.2)	7(41.2)	0(0)
活動をするときは、まず模範となるモデルを示して、何をするかをはっきりさせる	9(52.9)	6(35.3)	2(11.8)	0(0)
ペアワークやグループワークが多い	17(100)	0(0)	0(0)	0(0)
生徒同士で理解を確認し合う時間を設ける	14(82.4)	3(17.6)	0(0)	0(0)
教室や廊下に役立つ単語やフレーズなどを示すポスターを貼り、機会あるごとにそれを授業でも活用する	3(17.6)	7(41.2)	5(29.4)	2(11.8)
日本語のフラッシュカードを使いながら、英語で説明する	8(47.1)	6(35.3)	1(5.9)	2(11.8)
日本語に訳す	0(0)	4(23.5)	10(58.8)	3(17.6)

単位：人（％）

#### 4.5 英語で授業を行う利点と問題点

表3は、「英語の授業を英語で行う利点」として考えられるものを選択してもらった結果である。すべての項目について、全員が「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答している。全員が「とてもそう思う」と回答しているのは、「英語により多く触れることになる」と「言葉は実際のコミュニケーションで使って身につけることができるものだから、良い」で、1年間英語だけの授業を体験した生徒たち自らが、その利点を多数認めている。

表4は、「英語の授業を英語で行う問題点」として考えられるものを挙げ、各項目についてどう思うかを尋ねた結果である。「まあそう思う」と回答しているのは、「説明は日本語でしてほ



しい」が5人(29.4%),「英語嫌いの生徒がますます英語嫌いになるかもしれない」が4人(23.5%)である。一方,「すべて英語で授業をすると,わたしは困る」(質問1)あるいは「説明は日本語で聞いた方がはるかに効率的なことが多い」(質問5)と答える生徒は1人しかいない。どちらも「まったくそう思わない」と回答する生徒が9人(52.9%)おり,質問1は「あまりそう思わない」を合わせると約9割の生徒が問題点と捉えていない。また,「先生は私のレベルにあった英語で話してくれていない」については,「まったくそう思わない」が64.7%おり,「あまりそう思わない」を合わせると9割以上の生徒が自分のレベルにあった英語で話してくれていると感じている。「重要事項が理解できないことがある」と答えた生徒はいないことから,英語だけの授業はわかりやすく重要事項も理解できていると考えられる。一般的に問題点と考えられている事項が,生徒たちに問題点として捉えられていないということは特筆すべき点である。

表3 英語の授業を英語で行う利点

	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1 英語を使う自然な環境を作ることができる	16(94.1)	1(5.9)	0(0)	0(0)	0(0)
2 英語により多く触れることになる	17(100)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
3 いつも英語を聞いていると英語を聞き取りやすくなる	15(88.2)	2(11.8)	0(0)	0(0)	0(0)
4 授業が英語で行われると単語力をつけるのに役立つ	11(64.7)	6(35.3)	0(0)	0(0)	0(0)
5 英語を勉強することが楽しくなる	12(70.6)	5(29.4)	0(0)	0(0)	0(0)
6 言葉は実際のコミュニケーションで使って身につけることができるものだから,良い	17(100)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

単位:人(%)

表4 英語の授業を英語で行う問題点

	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1 すべて英語で授業をすると,私は困る	0(0)	1(5.9)	1(5.9)	6(35.3)	9(52.9)
2 説明は日本語でしてほしい	0(0)	5(29.4)	4(23.5)	5(29.4)	3(17.6)
3 先生は私のレベルにあった英語で話してくれていないと思う	0(0)	0(0)	1(5.9)	5(29.4)	11(64.7)
4 重要事項が理解できないことがある	0(0)	0(0)	2(11.8)	8(47.1)	7(41.2)
5 説明は日本語で聞いた方がはるかに効率的なことが多い	0(0)	1(5.9)	3(17.6)	4(23.5)	9(52.9)
6 英語嫌いの生徒がますます英語嫌いになるかもしれない	0(0)	4(23.5)	4(23.5)	1(5.9)	8(47.1)

単位:人(%)

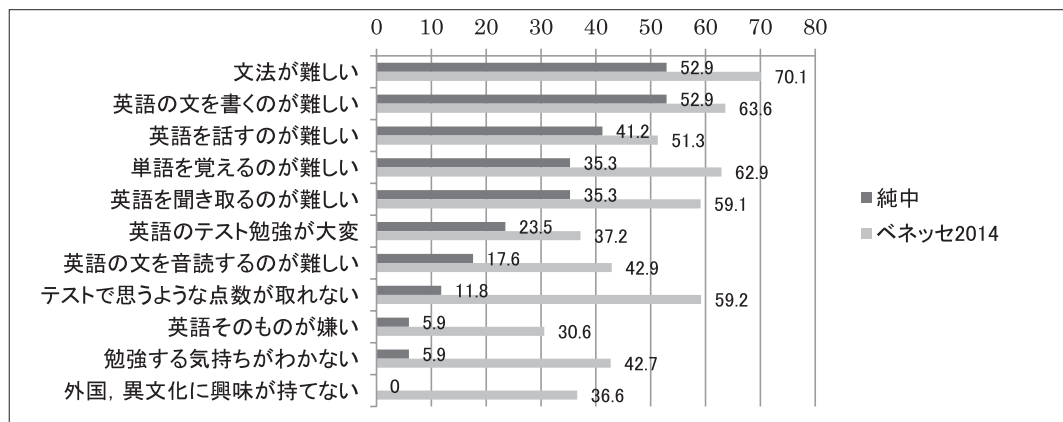
### 4.6 英語学習のつまずき

表5は、「英語の学習にかかわることについて、次のようなことはどのくらいあてはまりますか」という質問に4段階で回答してもらった結果（純中）である。生徒が英語学習においてつまずきやすいポイントを示している。

表5 英語学習のつまずき（純中の生徒調査）

	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1 単語を覚えるのが難しい	0(0)	6(35.3)	7(41.2)	4(23.5)
2 文法が難しい	2(11.8)	7(41.2)	6(35.3)	2(11.8)
3 英語の文を書くのが難しい	1(5.9)	8(47.1)	7(41.2)	1(5.9)
4 英語の文を音読するのが難しい	0(0)	3(17.6)	6(35.3)	8(47.1)
5 英語を話すのが難しい	1(5.9)	6(35.3)	7(41.2)	3(17.6)
6 英語を聞き取るのが難しい	0(0)	6(35.3)	6(35.3)	5(29.4)
7 外国, 異文化に興味を持ってない	0(0)	0(0)	4(23.5)	13(76.5)
8 英語のテストで思うような点数が取れない	1(5.9)	1(5.9)	10(58.8)	5(29.4)
9 英語そのものが嫌い	0(0)	1(5.9)	0(0)	16(94.1)
10 英語に限らず, 勉強する気持ちがわからない	0(0)	1(5.9)	6(35.3)	10(58.8)
11 英語のテストのための勉強が大変	0(0)	4(23.5)	11(64.7)	2(11.8)
12 教科書を暗唱するのが大変	0(0)	5(29.4)	9(52.9)	3(17.6)
13 予習(辞書調べ, 例文を書くなど)が大変	0(0)	7(41.2)	5(29.4)	4(23.5)

単位：人（％）



注) 「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計割合を「ベネッセ2014」と共通項目のみ比較 単位：％

図3 英語学習のつまずき（「ベネッセ2014」との比較）

図3は、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計割合を、「ベネッセ2014」と比較したものである。図3が示しているように、「もっとも難しい」と感じる項目は「文法が難しい」と「英語の文を書くのが難しい」で同じだが、純中の生徒の方が難しいと感じる割合が1割から2割低い。20ポイント以上の差がある項目として、「単語を覚えるのが難しい」、「英語の文を音読するのが難しい」、「英語を聞き取るのが難しい」、「外国, 異文化に興味を持ってない」、「英

語のテストで思うような点数が取れない」、「英語そのものが嫌い」、「英語に限らず、勉強する気持ちがわからない」が挙げられる。注目すべきは、すべての項目において英語だけの授業を受けた生徒たちの方がより難しくないと感じているということである。すなわち、英語だけの授業を受けた生徒たちの方が、学習上のつまずきが少ないということを示している。また、「外国や異文化に興味を持っていない」と回答している生徒は一人もいないことから、英語だけの授業を通して異文化に対する関心もかなり高まったことを示している。しかしながら、生徒が難しいと感じる項目に関しては、今後、指導方法を工夫することも必要であろう。

#### 4.7 将来の英語使用に関する意識

表6は、「あなたは将来、どれくらい英語力を身につけたいですか」という質問に対する回答結果を示している。「英語で仕事ができるくらいの英語力」という回答がもっとも高く(58.8%)、続いて「外国で暮らせるくらいの英語力」(35.3%)、「日常生活や海外旅行で困らないくらいの英語力」(5.9%)であった。「英語が必要だとは思わない」と回答している生徒は一人もいない。すなわち、かなり高度な英語力を身に付けたいと考えている生徒が多いことを示している。

表6 将来身に付けたい英語力

英語は必要だと思わない	日常生活や海外旅行で困らないくらいの英語力	外国で暮らせるくらいの英語力	英語で仕事ができるくらいの英語力
0	1(5.9)	6(35.3)	10(58.8)

単位：(%)

表7は、社会での英語の必要性和自分が英語を使うイメージについて尋ねた結果をまとめている。「あなたが大人になった時、①社会ではどれくらい英語を使う必要がある世の中になっていると思いますか。また、②あなた自身はどれくらい英語を使っていると思いますか」という質問に対して、①については、「いつもではないが仕事で英語を使うことがある」が一番多く(58.8%)、次に「仕事ではほとんどいつも英語を使う」(35.3%)が続く。「ベネッセ2014」では、「仕事ではほとんどいつも英語を使う」とする生徒は10.9%しかいない為、純中の方が社会での英語の必要性をより強くイメージしているといえる。また、②については「いつもではないが仕事で英語を使うことがある」がもっとも高く(64.7%)、次に「日常生活で外国の人と英語を話すことがある」(23.5%)と回答している。純中の生徒は、自分自身が英語を使うことについても約9割がイメージしている。「ベネッセ2014」では、社会での英語の必要性はわかっている、自分自身が英語を使うというイメージは低いということがわかる。普段の英語学習において「英語を使う」ことが少ない状況を考えると、中学生が英語を使うというイメージを持っていないことも当然かもしれない。一方、純中の生徒は、社会での英語の必要性を認め、かつ、自分自身が英語を使うというイメージも高いという結果が出ている。これは、授業で英語を使っていることから、自分自身も英語を使うこれからのグローバル社会をより自然にイメージできたためと考えられる。

表7 社会での英語の必要性と自分が英語を使うイメージ

社会での英語の必要性

	英語を使うことはほとんどない	日常生活で外国人と英語を話すことがある	いつもではないが仕事で英語を使うことがある	仕事ではほとんどいつも英語を使う	無回答・不明
純中	0	5.9	58.8	35.3	0
ベネッセ2014	7.5	26.0	54.0	10.9	1.5

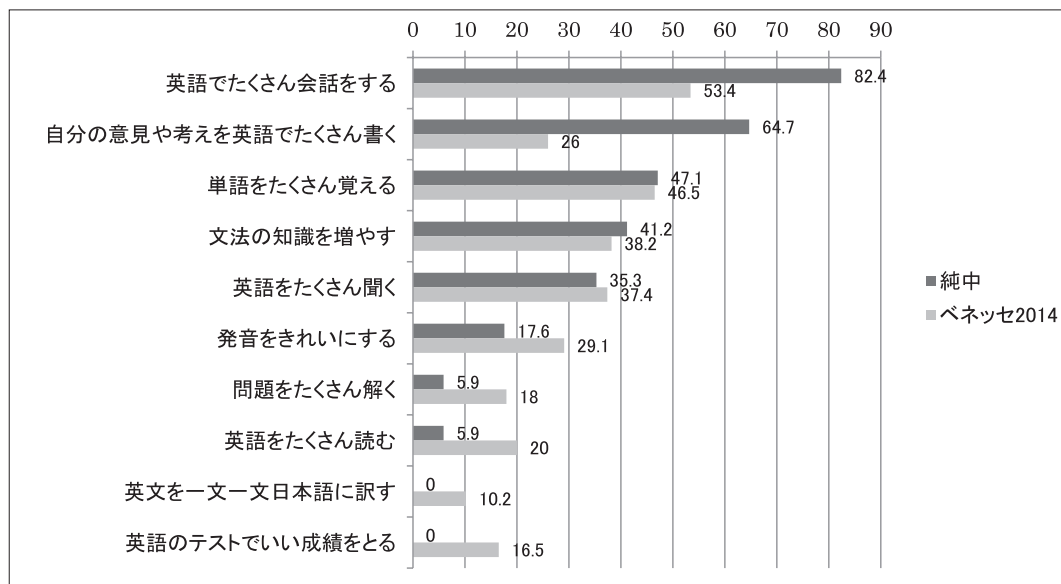
自分が英語を使うイメージ

	5.9	23.5	64.7	5.9	0
純中	5.9	23.5	64.7	5.9	0
ベネッセ2014	44.2	23.6	25.7	5	1.5

注)「ベネッセ2014」は、学年別の結果が公開されていない為、中学生全体の結果である。(単位：%)

#### 4.8 英語を勉強する上で大切なこと

図4は、「英語を勉強する上で大切なこと」について3つ選択した回答結果である。「英語でたくさん会話をする」という回答がもっとも高く(82.4%),続いて「自分の意見や考えを英語でたくさん書く」(64.7%),「単語をたくさん覚える」(47.1%),「文法の知識を増やす」(41.2%)であった。「英文を一文一文日本語に訳す」、「英語のテストでいい成績をとる」を選択した生徒は一人もいない。「ベネッセ2014」では、「英語でたくさん会話をする」という回答がもっとも高く(53.4%),続いて「単語をたくさん覚える」(46.5%),「文法の知識を増やす」(38.2%)であった。どちらも「英語でたくさん会話をする」という項目を選択した生徒が多い。しかし、純中は8割以上が大切なことと感じているが、「ベネッセ2014」は5割に過ぎない。さらに、純中は「自分の意見や考えを英語でたくさん書く」ことを選択した生徒も6割以上いることから、



注1) 複数回答 (10項目中3つ選択) 単位：%

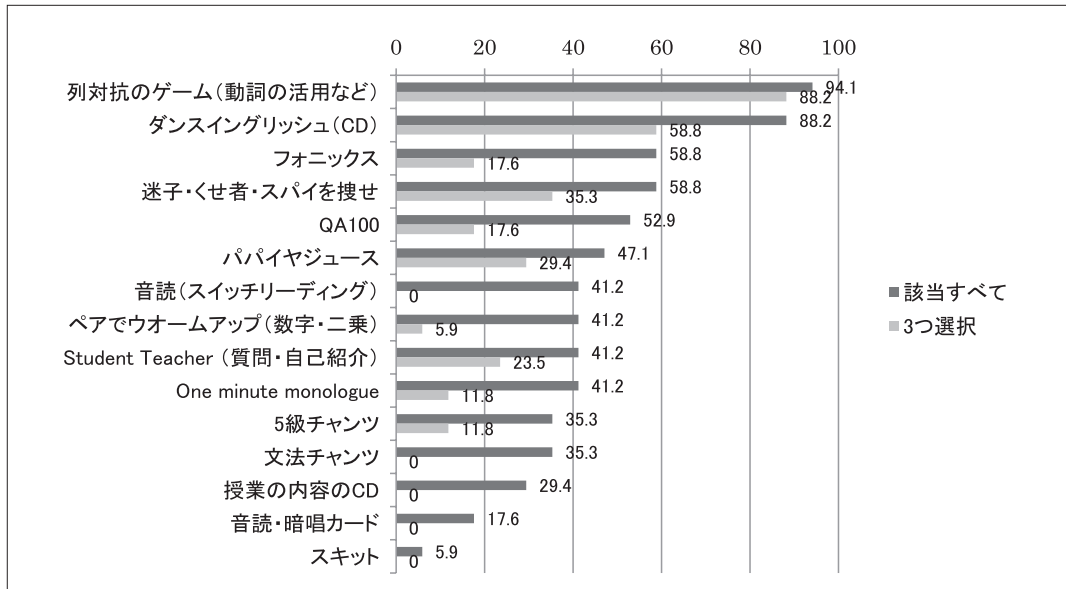
注2) 「ベネッセ2014」は、学年別の結果が公開されていない為、中学生全体の結果である。

図4 英語を勉強する上で大切なこと

英語で表現することが大切だと考えている生徒が多い。これは、普段の授業が英語で話す・書く表現活動を重視しているからと考えられる。

#### 4.9 楽しかった言語活動と英語力が向上した言語活動

図5は、1年時に体験した活動の中で楽しかった活動と特に楽しかった活動（3つ）の割合を示している。該当するものすべてを選んでもらったところ、もっとも楽しかった活動は、「列対抗のゲーム」(94.1%)であり、「ダンスイングリッシュ」(88.2%),「フォニックス」と「迷子・くせ者・スパイを捜せ」が(58.8%)で続く。「スキット」と「音読・暗唱カード」の割合が低い。これらが楽しくなかったのは、課題文の暗唱は個人で黙々と覚えなければならないという作業があり面白みを見いだせないためと推測できる。また、保護者や教師の前で英文を読むために、恥ずかしさや正確に読まなければならないというプレッシャーがあると予想される。スキットは英語のみの問題ではなく、表現力も含まれているためにクラスの前で行うことに抵抗があったり、失敗を恐れる傾向があるので苦手だと考えられる。



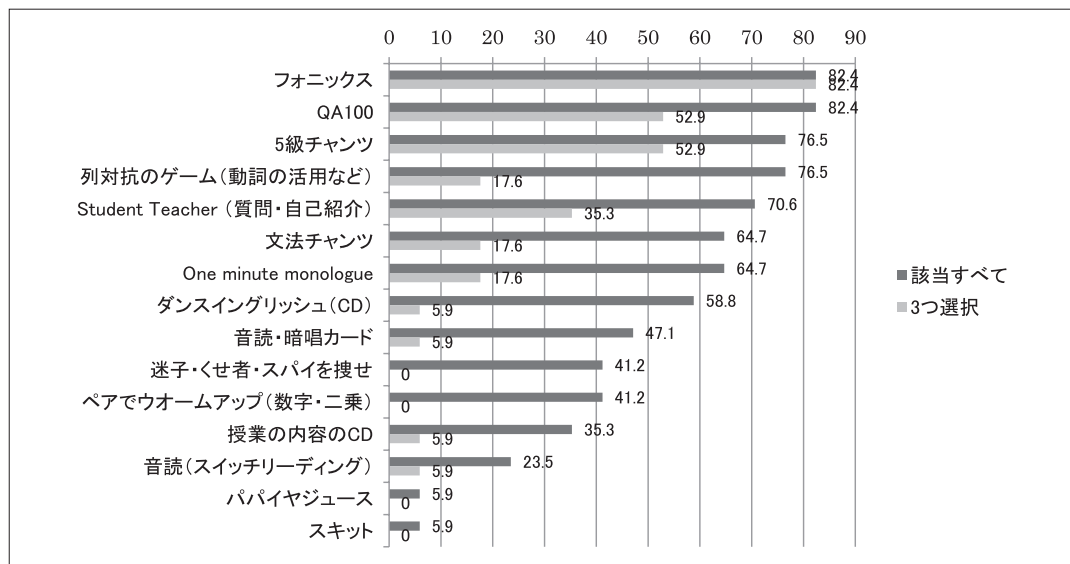
注)「該当すべて」とは該当する活動すべてを選択、「3つ選択」は、特に楽しかった活動を3つ選択(単位:%)

図5 楽しかった言語活動

図6は、1年時に体験した活動の中で、英語力が向上したと思う活動を選択してもらった結果である。該当するものをすべて選択した結果、「向上した」という割合が最も高かった項目は、「フォニックス」と「QA100」(82.4%)である。次に、「5級チャンツ」と「列対抗のゲーム」が76.5%で続き、「Student Teacher」(70.6%),「ダンスイングリッシュ」(58.8%)の順である。特に英語力が向上したと思う活動を3つ選んだ場合、「フォニックス」(82.4%)が最も高く、「QA100」と「5級チャンツ」が52.9%で続く。「フォニックス」は1学期に集中的に指導を行い、その後も授業中に単語や英文を読む際にルールの適用やファミリーワードを復習している。

生徒たちも、「フォニックス」を学習したことで実際に教科書の本文などが初見で読めるために英語力が向上したことを実感しているといえよう。「QA100」は2学期から行われるネイティブによる英会話の授業の際に応用が効き、ネイティブの先生の発話に答えられる、また質問が通じるという体験をすることで力がついていると感じているようである。「5級チャンツ」は実際に英検5級、4級を受験し、かなりの高得点で合格している結果から英語力がついていると実感しているようだ。

「パパイヤジュース」と「スキット」の評価が低いのは、「パパイヤジュース」は単に単語を読むためのアクティビティーであり、「スキット」も与えられた対話文を暗唱して発表するものであるため、単調な作業で英語力の向上を実感できないからかもしれない。図5と図6の結果から、「パパイヤジュース」は楽しい言語活動ではあるが、英語力向上に有益な活動とは考えられていないようである。また、「5級チャンツ」や「文法チャンツ」はあまり楽しい活動ではないが、英語力向上に役立ったと感じているようである。



注)「該当すべて」とは該当する活動すべてを選択、「3つ選択」は、特に楽しかった活動を3つ選択 (単位：%)

図6 英語力向上に有益な言語活動

#### 4.10 1年間英語で英語の授業を受けて良かったこと

「1年間、英語の授業を受けて、特に良かったと思うことは何ですか」と質問し、自由に記述してもらった回答をまとめると次のようになる。ここでは生徒が書いたことをほぼそのまま引用している。同様の内容で多少文言が違うものはまとめて、カッコ内に人数を示した。

##### 1. 楽しい授業

- ・スピーキングもリーディングもライティングも楽しく習得することができたこと
- ・列対抗のゲームなどで楽しく勉強できたこと
- ・小学生の時は心の底から大嫌いだった英語の授業が楽しみになるほど大好きになったこと

- ・楽しく勉強できる工夫がされていること
- ・とても楽しく英語を学ぶことができたこと (4)

## 2. 英語だけの授業

- ・発音がきれいな英語だけで授業が進められていたこと
- ・常に英語と触れることで、英語を聞く・話すに慣れたこと
- ・英語だけの授業で初めは不安だったけれど、先生がジェスチャーや表情もふまえていて、どんな感情なのか詳しく伝わったこと
- ・授業の中でほとんど英語で話していたので、聞き取りが上手くなったこと
- ・すべて英語で授業をすること
- ・授業がほとんど英語でスピードも落とすことがなかったこと 英検のリスニングにもついていけたから
- ・授業も英語で行ってくださるので、耳が英語に慣れリスニング、スピーキングで役に立ったこと
- ・普段からの英語での授業

## 3. 英語力、特に、話す力の向上

- ・自分のことについて友達と英語で話したり、外国でよくある場面の英語を学ばせてくださったこと
- ・友達と話すことで自分の使っていない表現を身につけたり、自分のことについてスラスラと英語で話せるようになったこと
- ・外国でよくある場面の英語を使うことで、外国人に道を尋ねられた時、きちんと相手と話ることができるようになったこと
- ・英語で会話するのに慣れ、ベネッセや英検のリスニング問題も解きやすかったこと
- ・発音が良くなったこと
- ・スピーキングとライティングを繰り返していたので、すぐ覚えることができたこと

## 4. フォニックス

- ・フォニックスで発音をしっかりと覚えたこと
- ・フォニックスを学習したので、初めて見るような単語であったとしても、読んだり、書いたりできること(2)
- ・フォニックスをしたり、ペアで質問をしたこと
- ・ローマ字読みしかできなかった私が、フォニックスを習って初見の文でも読めるようになったこと

## 5. その他

- ・ポイントをまとめたプリントがもらえる
- ・QA100などで、基本的なフレーズのほとんどが身についたと思うので良かった。

- ・チャンツは本当に役に立ちました。みんな楽しそうに休み時間も歌っていました。

以上のように、生徒は英語で行われた授業を楽しみ、それを通して特にリスニング力とスピーキング力が身に付いたことを実感しているようである。また、最初に学習したフォニックスを高く評価しており、どんな単語でも自分で読もうとする態度と読むことができるという自信が身に付いたようである。

#### 4.11 英語力が向上した要因

「授業と授業以外も含めて、英語力が向上した原因（要因）として考えられること」を自由に記述してもらった回答をまとめると次のようになる。ここでは生徒が書いたことをほぼそのまま引用している。同様の内容で多少文言が違うものはまとめて、カッコ内に人数を示した。

##### 1. 楽しい学習

- ・リズムやゲームで覚える英語だったこと
- ・楽しく勉強できたから
- ・ゲームなどを授業中にすることで楽しく学習できたこと
- ・楽しい授業を受け、英語が好きだと思えたこと (3)
- ・私は、体を動かしたりすることが好きだったので、ダンスなどをしながら英語を学べると「楽しいな」と思って、英語が好きになったから
- ・体を使っていたので、自然と英語が覚えられたこと

##### 2. 英語だけの授業

- ・英語で授業が進んでいたから(2)
- ・授業で英語が聞き取れるようになったので、外国の映画などを字幕で見えるようになったこと
- ・日常生活での英語がわかるようになったこと
- ・英語をよく聞いていたこと

##### 3. フォニックスとQA100

- ・フォニックスを使って発音などを覚えたことで、初めて見た文でも読めるようになったこと
- ・フォニックスとQA100とスペコンで基本を押さえてから次につなげることができたこと
- ・QA100やフォニックスで基本的なことを理解できるようになったこと
- ・毎日スピーキングをしたり、QA100をすることや英語で話すことなどで、「英語」が身近に感じられるようになったし、自分の気持ちを考え、行動を英語で話せるようになったから
- ・1年間、すべて役に立ちましたが、最初にやったフォニックスは、他の学校ではあまりやっていないと思うし、とても役に立ちました。テキストも他校より遅く始めましたが、フォニックスのおかげでスラスラ読めました。



- ・フォニックス 英語の基本からしっかりと土台作りすることですぐに読めるようになったこと

#### 4. 予習, 文法・単語学習, チャンツ

- ・予習で, できるだけ例文を書き, 「これはこう言うんだ」というのを知れたこと
- ・予習をしっかりやらないといけなかったから
- ・予習ノートも役に立ちました。単語の一つの意味だけでなく, たくさんのことを学べたからです。
- ・文法や単語をしっかり覚えたこと
- ・文法で主語と動詞などを記号で分けたこと
- ・口に出しながら単語の練習をしたこと
- ・英検前に対策をしてくださったこと
- ・チャンツのCD 日常で使えるものを簡単に覚えられ, メロディーと一緒に記憶したので忘れにくいと思う。

#### 5. その他

- ・授業が終わった後で, 質問してもわかりやすく教えていただいたから
- ・分かっていないような人がいたら, 何度も教えていただいたから
- ・英検前に対策をしてくださったこと
- ・失敗を恐れずにチャレンジすること わかるまで諦めないこと
- ・英語と英会話に分かれていて, 外国人の先生と話したりしたこと

以上の自由記述から, 英語力向上の要因として, 楽しい英語学習を体験したこと, フォニックスを学習したこと, 英語が好きになり英語を学習したいという意識が高まったこと, 予習をおして単語を文脈の中で理解し覚えることができるようになったことなどが考えられる。また, 教師が生徒の質問に対し真摯に対応し助力を惜しまなかったことも重要なことである。教師と生徒の信頼関係, ラポールが築かれていたことが, 英語好きを育て, 英語力を向上させたとも言えよう。

#### 4.12 改善してほしいこと

「改善してほしいこと」を尋ねたところ, 「今のままで, とても楽しく英語が学べるので特にありません」を始め「特にない」という回答(88.2%)が一番多かった。1人だけ, 「英語での説明の後に, 日本語で正しい説明をしてほしい」という生徒と「わからない単語があった時, 辞書調べをしている間, 聞き逃したりしてしまうので, 少しだけで良いから時間を取っていただきたい」という生徒がいた。やはり, 生徒の能力差もあり日本語訳を求める生徒がいることも否定できない。このような生徒たちには個別指導も必要かもしれない。

## 5. まとめ

本稿では、「英語の授業を英語で行うこと」の意義と課題を考察するために、授業の理解度、授業における活動内容、授業の成果、英語で授業を行う利点と問題点、英語学習のつまずき、将来の英語使用に関する意識、英語力が向上した言語活動や要因などについて、アンケート調査を実施し分析した。一部のデータは、一般的な中学生のデータ「ベネッセ2014」と比較しながら分析・考察することを試みた。結論として、英語で授業を行うことは、生徒の「英語力（特にスピーキング力）」を向上させ、「英語好き」を育て「英語学習に対する意欲」を高めると言える。また、生徒たちは「授業を英語で行う」利点を多数認め、一般的に問題点と考えられている事項は、生徒たちに問題点として捉えられていないということが判明した。英語による自己表現力をつけるには、英語への接触量を増やすことが肝心であり、英語で英語の授業を行うことは、この点からも大変意義深いと言える。今後、文科省や研究機関を中心に、効果的な指導方法や実践事例を収集し、成果をデータベース化・公表して、「英語による英語の授業」を推進していくことが必要であろう。

## 参考文献

- Yamada, H. & Hristoskova, G. (2011). Teaching and Learning English in English in Japanese Senior High Schools –Teachers’ & Students’ Perceptions–. *Journal of Fukui-ken Eigo Kenkyu-kai*, 69, 3-33
- 和泉伸一 2009. 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』大修館書店.
- 中井弘一 2010. 「高等学校における「英語の授業は英語で行う」についての一考察」『大阪女学院大学紀要』第7号, pp.33-53.
- 中本幹子 2011. 『CHANTS for Grammar』アプリコット出版.
- ベネッセ教育総合研究所 2014. 「中高生の英語学習に関する実態調査2014 速報版」 Available: <http://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=4356> [2016年3月]
- 松香洋子 1988. 『40時間でフォニックス Take off with Phonics Book 1』 mpi.
- 松香洋子 1988. 『40時間でフォニックス Take off with Phonics Book 2』 mpi.
- 松香洋子 2000. 『英会話たいそう Dansinglish』 mpi.
- 松香洋子 2011. 『QA-100指導用カード』 mpi.
- 松香洋子 2012. 『もっと英会話たいそう Dansinglish』 mpi.
- 文部科学省 2015. 教育課程企画特別部会における論点整理について（報告） Available:[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm) [2016年8月]
- 文部科学省 2016. 平成27年度公立中学校・中等教育学校（前期課程）における英語教育実施状況調査の結果について Available: [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1369258.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1369258.htm) [2016年5月]